

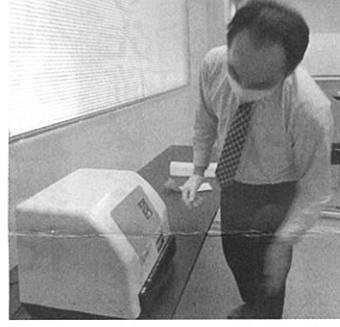
## 栃木県集連

# 穀粒判別器をフル活用

## 品位データを生産者にフィードバック

栃木県食糧集荷協同組合(宇都宮市 小瀧信長 理事長)の事務所には(株)ケット科学研究所の穀粒

関本幸一業務管理部長



ケットRN-700でチェック

の中には、近年高温障害で問題になっている白末熟粒に絞ったデータもある。令和二年産では百名を超す生産者の品種別「白末熟粒判定結果一覧」には、生産者名、品種名、田植え時期、出穂時期、積算温度、白末熟粒比率、整粒比率のデータがびつり書き込まれている。組合ではこうしたデータを穀粒判別器で判別、生産者へフィードバックして高品質のコメ作りを支援している。このたるため同組合が集荷している栃木県産米は極め

て一等比率が高く、高温や水害があった元年産でも九五%の一等比率を達成している。

それだけではなく組合員の集荷業者は生産者に供給した農業の種類等も記録、ポジティブリストも作成しており、集荷するコメの全てが「全集連安心米」の扱いになつて安心米の扱いになつて安心米の扱いになつて安心米の扱いになつて

に導入したものだが、同一組合の関本幸一業務管理部長は「コメの検査は目視だけではどうしてもズレが出て来る。より正確な品位検査のためには穀粒判別器は必要な器具だ」と言う。関本部長は長年農水省でコメの検査官を務め、検査の際に見比べる産地品種の「標準品」サンプルを作つていて

もちろん人間の目視による検査を軽視しているわけではなく、県内の農産物検査官を集めた検査研修会も実施。ハードルの高いテストを行い、それくなつた現在、これまで以上に機械による品位データ解析が重要になってきた。これは傘下組合が客觀的なコメの品位データを画像分析して生産者に示し納得してもらうため

の買入に際して穀粒判別器で検査したものも貰い入れ対象にすることを決めたことから「いざれ目視検査から機械検査に代わって行く」という見通しを決めたという。

もちろん人間の目視による検査を軽視しているわけではなく、県内の農産物検査官を集めた検査研修会も実施。ハードルの高いテストを行い、それくなつた現在、これまで以上に機械による品位データ解析が重要になってきた。これは傘下組合が客觀的なコメの品位データを画像分析して生産者に示し納得してもらうため

## 穀粒判別器の活用方法

### マッチングフェアで紹介

今年七月から未検査米

ア2020に穀粒判別器

城県で大規模に稻作を行つてゐる有シャリーの鈴

参加費は無料でWeb

ア2020に穀粒判別器

午前十時三十分から十二時三十分まで行われる。

和彦購買部長(株)アイホー

午前十時三十分から十二時三十分まで行われる。

午前十時三十分から十二時三十分まで行われる。

和彦購買部長(株)アイホー

午前十時三十分から十二時三十分まで行われる。

和彦購買部長(株)アイホー